

先生と私

先生との出会いは先生の研究会へ行って
 いた所 一年たつて 二かて終りの日
 正道いつて何を學へたかわからなかつた
 又一年勉強会がとろと思ひ
 又出席していいでしうから
 先生はいきなり
 君講師やうなにかし
 どん存とすのかわからなかつたし
 いろいろ
 いろいろ来たまふ

何か少から言はうな先生の研究所で
 先生の考えを全国的にひろげるため
 かりキエうな見出したり 講師を養成す
 こくにたり 黒板の前で講習をしてもう
 台として講師の養成をしてい
 何となく行くかもしれると思つていた時
 先生が「もうやめようかと思つてい
 と言つた いても先生は何を言つても
 だすつておいていたが その時どうして
 できか と言つてしなかつた

入のお金は六十万だ (すどり)

借金は月々百万円

スボコサ一十出してもう五ねばといいか

左のねバカ男としてそんなこと言えっか

君は何でも教える系にうた かっいらん

やつだ まやん やりさく

と やりてしやうん

さ身 とうする

任平はメ、二系

雑用は男の 松は

や妙うねるん っいた = 十年近く講習の

任平をしてして不うん

人の出まいは不思議なものだ

2022
7/28